

1 はじめに

ファンシーツイードとは、糸に装飾効果を付加させた意匠系（ファンシーヤーン）を用いて織られた生地のことである。世界的ブランドでもあるシャネルのスーツでも使用されており、フォーマルからカジュアルまで幅広い活用ができる。

尾州とは、愛知県一宮市を中心とした尾張西部から岐阜県西濃エリアのことを指す。奈良時代には麻や絹織物の産地として栄えており、その技術力の高さを受け継ぎ素材も綿から毛へと移り変わった。現在では、豊かな水資源や土地があることから、日本最大の毛織物産地として知られている。ここで織られた織物は、品質が良く種類も豊富であるため、国内外のファッションブランドが製品の生地として多く使用している。

本制作では、尾州産地のファンシーツイードを用いて試料布の種類による物性や布の力学特性の違いについて比較し、結果をもとに冬用コートの制作をしていく。

2 実験方法

2-1 試料

本実験での測定で使用した試料4種類の詳細（表1）、試料の写真（図1）を下記に示す。

表1 試料布の詳細

試料番号	組成	割合 (%)
1	ウール	75
	ナイロン	10
	レーヨン	9
	アクリル	4
	ポリエステル	1
	ポリウレタン	1
2	ウール	85
	アクリル	15
3	ウール	93
	モヘア	7
4	ウール	73
	コットン	12
	レーヨン	12
	キュプラ	2
	ポリエステル	1

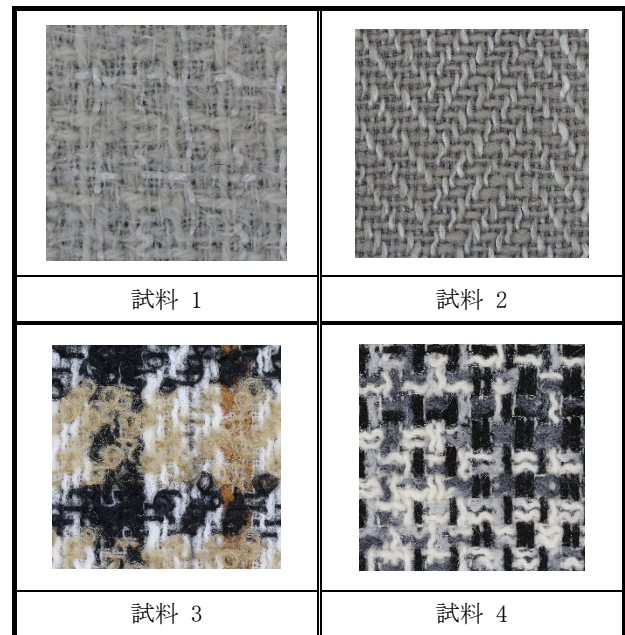


図1 試料布の写真

2-2 測定方法

a. 曲げ特性

KES - FB2を使用して曲げの測定を行い、曲げ剛性B ($\text{gf} \cdot \text{cm}^2$)と曲げヒステリシス2HB ($\text{gf} \cdot \text{cm}$)を求めた。

b. 通気抵抗

KES - F8 - AP1を使用して通気抵抗の測定を行い、通気抵抗R ($\text{Kpa} \cdot \text{s/m}$)を求めた。

3 結果及び考察

曲げの測定結果をそれぞれ図2及び図3に示す。図2は布地に対してタテとヨコの曲げ剛性Bを表し、図3は布地に対してタテとヨコの曲げヒステリシス2HBを表している。曲げ剛性B及び曲げヒステリシス2HBともにタテとヨコで大きな差は見られなかった。曲げ剛性Bは、試料3が最も大きく、これは曲げヒステリシス2HBにおいても同様のことが言える。図4は婦人服地の280枚の平均値のグラフに実線（通常のテーラードスーツ地）、斜線（起伏のあるテーラードスーツ地）の範囲を示したものである。試料1と2は斜線内に入っており、テーラードスーツ地に向いている布であることが分かる。一方で、試料3と4は斜線内より曲げ特性値が大きいいため、スーツ地の他コート地にも使用できるのではないかと考えられる。

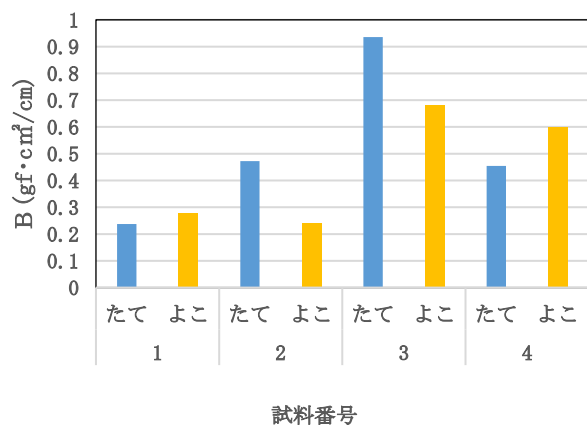


図2 曲げ剛性Bの測定結果

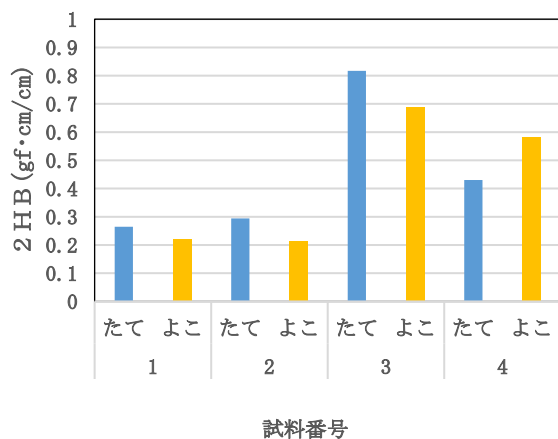
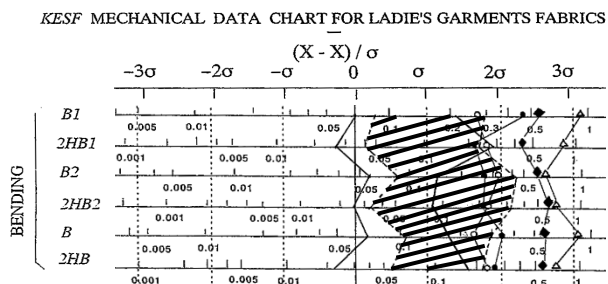


図3 曲げヒステリシス 2HBの測定結果



- ・実線 (テーラード) ・○ (試料 1) ・△ (試料 3)
- ・点線 (布表面起伏模様) ・● (試料 2) ・◆ (試料 4)

図4 曲げ特性値のチャートへのプロット

通気抵抗の測定結果を図5に示す。図5は通気抵抗Rの結果(青色)とレディースのスーツ地・ドレス地の平均値(黄色)を表している。この中では、レディース用スーツ地が0.287と1番大きく、測定した試料はいずれもこの平均値より低い値となっている。これは試料の織り糸が太く糸密度が大きいため、糸と糸との間隙が大きいことと関連していると思われる。このことから、今回使用した試料は

糸密度が大きく、スーツ地としては通気抵抗の小さい布地であることが分かる。

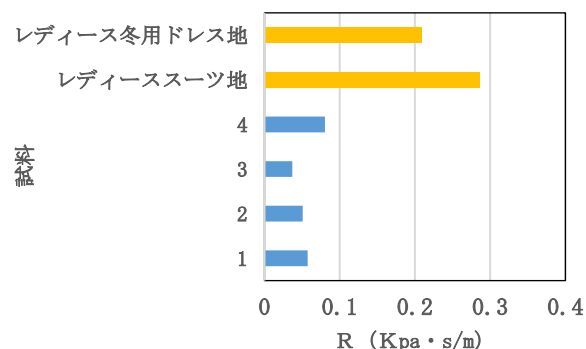


図5 通気抵抗Rの測定結果

4 制作

曲げ特性、通気抵抗の結果から試料4をコート生地として使用し、冬用コートの制作を行うことにした。着心地や保温性のために裏地をつける2枚仕立てのコートとした。完成した写真(図6)をした下記に示す。



図6 完成作品

5 おわりに

ファンシーツイードは、生地ごとの曲げや通気抵抗の値に大きな違いは見られないことが分かった。制作するにあたり、使用した生地は進めていく度に地糸がほどけてきたりするなど扱い方が難しかったが他の地方にはない尾州独特の生地を扱って制作を進めることができた。地元である尾州の生地を使用していることもあり、有意義な時間を過ごすことが出来た。

6 参考文献

- 公益財団法人 一宮地場産業ファッションデザインセンター、「B I S H U 尾州産地のテキスタイルが生まれるまで」 p1~2